

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	アットホームな雰囲気でご利用者さまと、ご家族とさまとの関係を継続していくことは、当ホームの特徴であり、不動の目標ではありますが、職員の意識として、アットホームな反面、新鮮さや、礼儀が崩れかねないという心配は付き物です。	グループホーム職員の心得(当ホームの理念)を意識し、職員倫理に乗っ取った利用者さま、ご家族さまに対する対応をとる。	H23年度4月から「業務主体ではなく利用者主体」「行動を強制するような声掛けや態度の撤廃」「職業モラルに反する行為の撤廃」とは何かを検討し、それらの徹底に努めてきましたが、まず職員ひとりひとりが、それらが徹底できていたか等の反省と、10月の下半期以降の目標として、「支持が指示に」「安心安全が支配にならない介護」「共に暮らす、共に生きる、共に行う」を徹底できる介護現場の風土づくりをすべく、職員全員で話し合い、具体的な内容も含め、行動の目標を立てる。	6ヶ月
2	10	長く入居いただいているご利用者の認知症の進行によるADL低下がみられているため、ケアの方法など、職員の知識の強化を図る必要がある	ご利用者さまが、安心安全安楽かつ、活気よく過ごせるようなケアを実践する。	トランスファー等、ボディメカニクスの理解 認知症のために食事・水分がとりづらくなってこられた方に対するケアの仕方、調理方法等 排泄介助を始め、体力維持のためのアプローチ等 についての事業所内の勉強会の開催や、外部研修の参加。	12ヶ月
3	4	運営推進会議において、平日開催のため、家族参加の機会が少ない。そのため、事前に家族に意見や、質問なども収集した上で、会議の場で「家族の声」として発表する、それに答えるという機会を作れば良い、また、会議の場に居ても可能な利用者さまの出席もできれば良い、と調査員さまに助言していただきました。	ご家族さま、ご本人さまの声を運営推進会議の場で活かせる。	現在、毎月発行している「ありがとう通信」で簡単な運営推進会議の報告や、ご家族さまへの意見の収集を行っていますが、意見等はあがってきておりません。ご家族さまとのパートナーシップを第一と考えている当ホームでは、ご家族さまも運営に携わっているという意味で、どんどんご意見が聞きたいということをもっと訴えていければと思っています。	12ヶ月
4	40	献立に関しては現在の方法で問題にはあがってきませんが、時が経つごとに長く入居していただいているご利用者さまのADL低下がみられ、皆で夕食に出かけることが難しくなりました。個別で夕食に行くことは既に行っておりますが、普段とは雰囲気の違う中で、皆と食事をする良さというものを叶えていきたい。	普段とは違う雰囲気の中で食事することにより、楽しみや張り合いになり、生き生きと過ごすことができる。	職員の係担当の中に、食事係とレクリエーション係が存在します。その係同士の連携で、食事の場所を変える、食事の提供の仕方を変える、ということを検討し、楽しみの支援ができるように取り組みます。個別の夕食や、行事、お茶会とは別に、2ヶ月に1回からでも実践できればと思います。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。